



道徳教育について

「道徳の教科化」という言葉を報道等で聞いたことがあるでしょうか。道徳の時間というのは、保護者の皆様も小学校の時からあったと思いますが、新しい学習指導要領では「特別の教科 道徳」（道徳科）となり、今まで以上に大切にされています。では、それはなぜでしょうか。理由は3つあります。

（1）予測困難な未来

アメリカの大学教授らが「子どもたちの65%は将来、今は存在しない職業に就く」とか「今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い」と予測しています。実際にそれは現実味をおびており、今の子どもたちが将来、社会の中心となって活躍する時代は、先が見通せない、未来予想が難しい社会になっています。また、グローバル化が急速に進展し、外国の人々との交流が経済、文化、環境等様々な面で促進され、自国だけで存立することが難しい時代になってきています。このような時代の中で、未来を生き抜くために必要な資質や能力の育成や、国際感覚を身に付けた日本人の育成を図っていく必要があります。

（2）道徳の時間のさらなる充実

道徳の時間は、1958年（昭和33年）から始まりました。しかし、人としての生き方を考える道徳が大切だという教師の認識はあるものの、入試に直接かかわりがなく、通知表（学びのたより）等に記入することもない中で、他の学習活動に転用されることもあるなど、軽視される傾向がありました。

そこで、今回教科化することにより、道徳の授業を確実にを行うこと、「考え、議論する道徳」への転換を図ることをねらっています。

（3）いじめ問題の対応

2011年（平成23年）、滋賀県大津市の中学生が、いじめが原因で自殺するという事件がありました。この事件をきっかけにして教育再生実行会議が開催され、第一次提言として法律の整備や道徳教育の重要性が強調されました。

さて、本校においても、これからの社会を生きるために必要な資質や能力を育成するため、道徳教育の充実は大変重要だと考えており、授業改善の必要性を感じています。本年度は「子どもと共に創る主体的・対話的で深い学びのある道徳授業」をテーマにして、授業中に児童が考えたり、発表したりして学んだことが実生活の中で生かされる、あるいは将来にわたって自分の生きる指針になることを願い、実践を積み重ねているところです。来週6月22日（月）には、外部から大学の先生を指導者にお招きし、4年3組が研究授業を行います。4年3組の教室の前面には、「挑戦する4年3組」という学級目標が掲げられています。田上先生と児童が力を合わせていい授業を創ってほしいと思います。

保護者の皆様には、通常よりも児童の下校時間が早くなりますが、本校教育の発展のためご理解いただきますようお願いいたします。



掃除に熱心に取り組む児童



エコキャップを回収する児童

6年生の修学旅行について

6年生の修学旅行は9月3日（木）、4日（金）の予定です。幸いなことに現状では大阪・京都・奈良は新型コロナウイルスの新たな感染が抑止されており、今のままなら、対策をしっかりとすれば実施は可能と考えております。しかし、6月19日（金）以降、全国的に県外への移動制限が解除になりますので、新たな感染の発生状況等を見極め、改めて判断いたします。

7月上旬に旅行業者との打合せ、7月中旬から下旬にかけて保護者説明会を開催する予定ですのでお知らせください。なお、9月が難しい場合は12月に延期する予定であり、訪問地も含めて最後まであきらめずに実施の可能性を探りたいと考えています。

※ 自由記述欄です。学校の取組みや学校通信に対し、ご意見やご感想があれば記入いただき、子どもに持たせてください。